

講演2

ペットの飼育問題に対する人の福祉からのアプローチ ～動物愛護管理との連携について～

2026年2月8日（日）
浦和大学 社会学部総合福祉学科
社会福祉士・精神保健福祉士 中土 純子

はじめに

1. 研究テーマと問題関心
2. 動物飼育問題に関する動向
3. 動物飼育問題に関する取り組み
4. ソーシャルワーク事例
5. 社会福祉と動物福祉
6. 今後の課題と展望
7. 補足資料

用語の整理

- ・ペット＝飼育動物 ※コンパニオンアニマル、伴侶動物、愛玩動物
- ・「動物愛護」と「動物福祉」
 - ※animal welfare (動物福祉)、animal protection (動物保護)、animal rights (動物の権利)
- ・動物の愛護及び管理に関する法律：An Outline of the Act on Welfare and Management of Animals

1. 研究テーマと問題関心：略歴

ソーシャルワーク実践

- ・社会福祉士・精神保健福祉士
- ・老人保健施設、在宅医療クリニックに勤務
- ・2015年～自立支援専門員（埼玉県社会福祉士会受託事業）
*生活保護世帯への支援

動物とのつながり

- ・ボルゾイ：ドッグショーを通じて繁殖業界の実情を知る
- ・ジャックラッセルテリア：繁殖引退犬を家族に迎える
- ・猫：保護猫活動をしている動物病院から家族に迎える

1. 研究テーマと問題関心

現在の主要なテーマ

- ① 生活保護・生活困窮者支援とソーシャルワーク実践
- ② ソーシャルワークと動物福祉
 - ・日本で動物福祉が遅れているのはなぜなのか
 - ・ソーシャルワーカーは何ができるのか/すべきか

1. 研究テーマと問題関心：前提として

日本で動物福祉が遅れているのはなぜなのか

- ・「動物愛護」と「動物福祉」の違い
- ・日本独特の事情や背景

ソーシャルワーカーは何ができるのか/すべきか

- ・“ペットの飼育問題”は人や地域の問題（課題）と捉える
➡ 社会福祉領域のテーマであるという認識が重要

※現状：社会福祉士養成の教科書・カリキュラムに
“動物”は支援対象として登場していない

1. 研究テーマと問題関心：前提として

社会福祉分野で「動物」が登場するトピック

- ・児童虐待/殺傷事件との関連
- ・動物介在療法（AAT: Animal Assisted Therapy）
 - ※高齢者や障害者、医療機関、更生施設での動物療法
- ・身体障害者補助犬法：盲導犬、介助犬、聴導犬

社会福祉法 第1条：目的

「社会福祉を目的とする事業の全分野における共通基本事項を定め、社会福祉を目的とする他の法律と相まって、福祉サービスの利用者の利益の保護及び地域における社会福祉（以下「地域福祉」という）の推進を図るとともに、社会福祉事業の公明かつ適正な実施の確保及び社会福祉を目的とする事業の健全な発達を図り、もって社会福祉の増進に資すること」

- ➡ 社会福祉法の目的は「**地域福祉の増進を図ること**」
- ➡ 地域福祉計画・地域保健福祉計画等の項目に「**動物との共生**」が見られる

- ・ 動物の飼育費が生活費を圧迫する ➡ **生活困窮**
- ・ 動物の抜け毛・糞尿等による悪臭、不衛生な住環境 ➡ **住環境の悪化**
- ・ 鳴き声や悪臭に対する近隣からの苦情
- ・ 動物がいるため入院や通所サービスの利用を拒否 ➡ **社会的孤立**
- ・ 飼い犬が獐狂で支援者の訪問が困難
- ・ ペット不可の県営住宅で動物を飼育している ➡ **転居困難**
- ・ 狂犬病予防接種等の各種ワクチン未接種 ➡ **身体・健康上の問題**
- ・ 犬の散歩時に引っ張られて転倒
- ・ 不妊手術をしていない ➡ **多頭飼育崩壊のリスク**

多頭飼育問題は、動物ではなく**人の問題**であるという認識が広まる
➡ **2021年 環境省「ガイドライン」**

- ・行政、保護団体、福祉関係者、市民などの「**連携**」が必要である
- ・**予防**と**再発防止**の重要性が指摘され、自治体の取り組みが広がつつある



多頭飼育問題が生じる社会的背景

- ・就労困難、失業による収入減少
- ・疾病、障害等による心身の健康喪失
- ・ライフステージの変化 等

多頭飼育問題
生活困窮により生じる
様々な問題の一つ

多頭飼育問題の背景 飼い主の生活困窮や社会的な孤立等がある

- ①社会福祉の支援が必要な飼い主が多い
- ②飼い主から強制的に動物を取り上げることが難しい
- ③再発リスクが非常に高い
- ④根本的な解決のためには飼い主に働きかける必要がある

「人の問題」と「動物の問題」として別々に対応するのではなく、関係者が**連携して対応**することが重要

(出典:佐藤清治(社会福祉法人 長野県社会福祉協議会), 社会的孤立の背景と要因～社会福祉の立場からみた
多岐回養者の特徴について～を一部改定)

※前掲ガイドライン16頁

※2019年 環境省「社会福祉施策と連携した多国籍官民連携事業アンケート調査」

不衛生	動物の糞尿や死体、ゴミの放置による非常に強い悪臭や害虫の発生 入浴や洗濯を怠る等
自立困難	認知機能や身体能力の低下
貧困	経済的な困窮による家賃や公共料金の未払い 適切な金銭管理ができていない等
暴力	近所や住民への暴言や威嚇的行動、特定の人物や話題にのみ 攻撃的な態度を取る等
動物への固執	動物の所有権、発給分や不妊去勢手術へ非常に強い抵抗感を示す等
サービス拒否	医療や保険、福祉サービスを拒否する傾向が強い
依存	アルコールやギャンブル、動物等への依存

2022年9月22日 滋賀県健康医療福祉部生活衛生課「滋賀県多頭飼育問題対策マニュアル」
<https://www.pref.shiga.lg.jp/file/attachment/5365489.pdf>

道賀県多額助産師会 が策メアール 一般社団法人道賀県助産師会 道賀県に於ける助産師の活動の場として	飼いまの生活状況の悪化 【衛生管理への影響】 ・糞尿の処理、散乱 ・糞尿の発生 ・雪、雪みずの発生 【経済面への影響】 ・飼育費用による多額追加 【衣食住への影響】 ・身体や衣服の汚れの放置 ・食糧品の悪化 ・飼育環境の悪化 【つながらぬ生活】 ・家族と住民のトラブル ・地域における孤立 ・人間不信	動物の状態の悪化 【飼育管理への影響】 ・十分な管理、給与 ・毛玉や糞尿の発生 ・十分なケアの放置 【健康面への影響】 ・栄養不足 ・治療の必要な動物の放置 ・感染症の蔓延 【虐待状況への悪化】 ・虐待状況の悪化 ・不適切な飼育行為 【社会性への影響】 ・犬との適切な関係性の欠如 ・人懐っこくない	周辺への生活環境の悪化 【衛生面への影響】 ・ごみや糞尿の堆積 ・臭気や騒音 ・害鳥、害獣の発生 【大損に及ぶ可能性】 ・造成した大損の周辺環境への波及 ・収容事故の発生
---	--	---	---

図1 多頭飼育問題の3つの影響

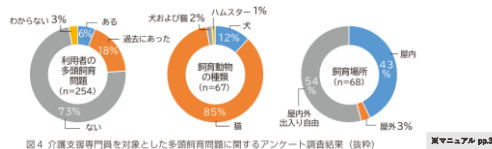
2017-07-01

3. 動物飼育問題に関する取り組み：自治体の取り組み②

2021年7月～8月 滋賀県介護支援専門員連絡協議会

介護支援専門員を対象とした多頭飼育問題に関するアンケート調査

- ・24%の介護支援専門員が多頭飼育問題を抱えている利用者の担当経験有
- ・87%で猫が飼育されており、57%が屋内外の出入りが自由な飼育状態
- ・利用者や家族から動物の飼育について相談を受けた事例は13%



3. 動物飼育問題に関する取り組み：自治体の取り組み③

2021年11月～12月 社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会

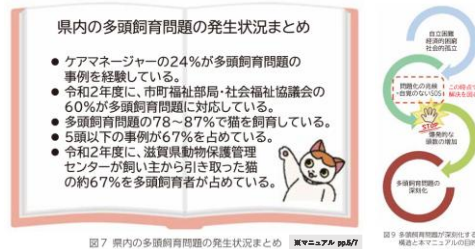
相談支援機関等における複合的な課題への対応にかかる調査

- * 滋賀県内の相談支援機関を対象に実施
- * 2021年4月～9月末の対応ケースについてとりまとめた
- ・約4割の機関が多頭飼育問題への対応を実施している
- ・約半数の機関において、多頭飼育問題に対して分野を超えた連携による支援が出来ているものの割合が1割未満

表1 動物の多頭飼育により対応ができていないケースの割合

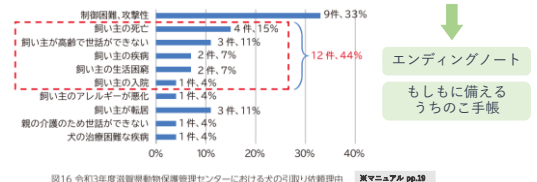
機関名	対応	対応	対応	対応	対応	対応	対応	対応	対応
滋賀県社会福祉協議会 (n=25)	14	3	4	1	3				
滋賀県社会福祉協議会 (n=27)	19	7	1	0	0				
利用者の多頭飼育 (n=12)	11	1	0	0	0				
自立相談支援機関 (n=16)	12	4	0	0	0				
社会福祉協議会 (n=10)	6	4	0	0	0				
動物の多頭飼育 (n=6)	5	1	0	0	0				
合計 (n=109)	67	39	3	0	0				

3. 動物飼育問題に関する取り組み：自治体の取り組み④



3. 動物飼育問題に関する取り組み：自治体の取り組み⑤

2021年度 滋賀県動物保護管理センター・県内6保健所で引き取った犬27事例
* 44% (12件) は飼い主の死亡、高齢、疾病、生活困窮または入院が理由



4. ソーシャルワーク事例：概要

あるケースとの出会い

- ・ 50代単身世帯 ➡ 家族・親族と断絶状態
- ・ 猫の多頭飼育崩壊状態 ➡ 避妊・去勢手術拒否
- ・ 劣悪な生活環境 ➡ 電気・ガスの供給停止
- ・ 精神疾患の疑い ➡ 受診拒否

4. ソーシャルワーク事例：経過

支援者の心情

- ・ 本人の生活改善のためには、猫たちをなんとかしなければ
- ・ 猫がかわいそう。これは虐待だ！

4. ソーシャルワーク事例：現状

支援経過

※本人の“敵”にならないこと
→ 本人を否定せず尊重する姿勢を示す

- ・ 法テラス同行 → 債務整理、電気復活
- ・ 動物指導センターとの連携 → **子猫・一部成猫の譲渡**
- ・ 保健センターとの連携 → 定期的面談（受診拒否）
- ・ 交番・警察署との連携 → 関係修復せず
- ・ 親族との連絡 → 関係修復せず

現状：猫の繁殖予防策も不完全で、
生活環境・飼育環境の改善には至っていない

4. ソーシャルワーク事例：動物管理行政との連携

<動物指導センターとの連携>

- ・ 子猫の譲渡から交渉を進める
- ・ 弱い個体、懐かない個体の譲渡
- ・ 里親募集/決定の画像や動画を共有
- ・ ケージの貸し出し、搬送協力
※10頭以上の飼育届を提出

<保健センター・町役場との連携>

- ・ さくらねこ無料不妊手術事業の申請

5. 社会福祉と動物福祉

動物の飼育問題が生じる背景：飼い主側にある課題

- ・ 安易に動物を入手し飼育する
 - ・ 飼育にかかるコスト意識や知識が不十分
 - ・ 動物に対する依存（強い愛着・執着）
 - ・ 適正な飼育・ケアの知識不足
- ・ 精神疾患/障害
・ 知的障害
・ 認知症
・ 貧困・社会的孤立 等

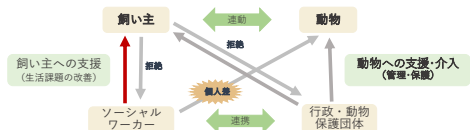
動物の飼育問題が生じる背景：法制度上の課題

- ・ 所有権の壁
- ・ 管轄行政と責任の所在
- ・ 動物飼育（入手）の容易さ
- ・ 初期介入の意識不足
- ・ 国と自治体の取り組み体制（地域格差）

5. 社会福祉と動物福祉

支援者（ソーシャルワーカー）の立場と困難を感じる要因

- ① 動物に関する制度やサービスの知識不足
- ② 動物保護団体や行政機関との連携が不十分
※保護団体からの歩み寄り
- ③ 動物福祉に対する意識やジェレンマ
* 「命」の扱われかたへの苦悩（個人差あり）



5. 社会福祉と動物福祉：求められる視点

「動物の問題」に先行して「人間の生活課題」が生じている

- ・ 「動物の飼育問題」を生活困窮や社会的孤立の問題として捉える
- ・ 社会福祉専門職が「飼育動物」の状況に関心をもち、対処していくことが早期発見・早期対応につながる

地域福祉の課題として「動物の問題」を捉える

- ・ 動物に対する個人的感情に依拠しない支援の枠組みが必要
- ・ 社会福祉専門職として「動物の問題」にも取り組む姿勢を保つ
= 「動物福祉」と「社会福祉」の両立を目指す実践につながる

→ ソーシャルワーク専門職のグローバル定義
社会変革と社会開発、社会的結束、**社会正義**、人権 等

6. 今後の課題と展望

① 社会福祉専門職の実践・教育に動物の飼育問題を位置付ける

→ 実践報告・研究の積み重ねが必要 → 動物福祉実践の理論化

② 自治体の取り組みから政策へつなげる

→ 地域福祉計画、地域保健福祉計画等に組み込む → 市民の声

③ 保護団体を支援するシステムの構築

→ 保護団体・者がバンクしない仕組みが必要 → 監視と規制

④ 「動物福祉」の社会的意識向上

→ 日本社会における動物の「扱い」が問われる → 愛護と福祉

⑤ マダニ感染症（SFTS）の動向 ※致死率10～30%

6. 今後の展望：「One Welfare」へ

ワン・ウェルフェアとは、動物福祉、人間の幸福、そして物理的・社会的環境の相互関係を説明する概念である

1. 動物虐待/ネグレクトと人間への虐待の関連性
2. 動物福祉の向上による社会的影響
3. 動物の健康と福祉、人間の幸福、食料安全保障と持続可能性
4. 動物、人間、環境が関与する支援的介入
5. 持続可能性：生物多様性、環境、動物福祉、人間の幸福のつながり

Rebeca Garcia Pinillos (2016)

参考資料・文献（抜粋）

- * 環境省、「人、動物、地域に向き合う多頭飼育対策ガイドライン～社会福祉と動物愛護管理の多機関連携に向けて～」2021年3月
- * 環境省、令和元年度 社会福祉施策と連携した多頭飼育対策推進事業アンケート調査報告書. 2020
- * 滋賀県健康福祉部生活衛生課「滋賀県多頭飼育問題対策マニュアル」2022年9月22日
- * 打越敏子 (2021) 「多頭飼育問題の解決に向けた多職種連携の必要性」『月刊福祉』104(2). 70-73
- * 打越敏子 (2022) 『動物問題と社会福祉政策－多頭飼育問題を深く考える』ナカニシヤ出版
- * 江口洋一郎 (2024) 『動物論争の未来学』
- * 佐藤亜樹 (2024) 「高齢者等のセルフ・ネグレクトと多頭飼育崩壊－保護犬・保護猫団体と社会福祉行政・機関の連携が本人とペット・地域コミュニティにおよぼす影響」『ユニバーサル財団報告書』1-26
- * Janet Hoy-Gerlach, Martha Delgado and Heather Sloane (2019) 「Rediscovering connections between animal welfare and human welfare: Creating social work internships at a humane society」 Journal of Social Work, Vol. 19(2) 216-232
- * Nik Taylor, Carole Adamson, Blind Bennett, and Heather Fraser (2025) 「Animals and Social Work」 Volume 37,number1, Aotearoa New Zealand Social Work

※質問やご意見などがあれば → ju.nakatsuchi@urawa.ac.jp